

2024 年度  
新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科  
入学試験（一次募集）問題  
『一般選抜』

「小論文」

## 試験の受け方について

- 1 試験開始の合図があるまでは、この冊子を開いてはいけません。
- 2 この冊子は1～4ページまでとなっています。
- 3 解答はすべてこの冊子の解答欄に記入してください。
- 4 試験時間は60分です。
- 5 印刷が不明瞭な場合のほかは、問題について質問は受けません。
- 6 不正な行為があった場合は、解答はすべて無効となります。
- 7 試験終了時にこの冊子および下書き用紙を提出してください。
- 8 受験番号欄に受験番号を記入してください。

受験番号	合計得点

「小論文」

あなたがスクールカウンセラーとして中学生と面接している際、「もう生きていてもしょうがないと思っている。このことは先生だけには伝えておこうと思って」と打ち明けられた。この時、あなたがどのようなことを考え、どう対応するのかを論じなさい。

(1200~1600字)

A blank grid paper with a vertical axis on the right side. The vertical axis has labels 100, 200, and 300. The grid is 20 units wide and 300 units high.

2024 年度  
新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科  
入学試験（一次募集）問題  
『一般選抜』

「英語」

試験の受け方について

- 1 試験開始の合図があるまでは、この冊子を開いてはいけません。
- 2 電子辞書以外の語学辞書（英和一冊）の使用を許可します。
- 3 この冊子は1～5ページまでとなっています。
- 4 解答はすべてこの冊子の解答欄に記入してください。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 印刷が不明瞭な場合のほかは、問題について質問は受けません。
- 7 不正な行為があった場合は、解答はすべて無効となります。
- 8 試験終了時にこの冊子および下書き用紙を提出してください。
- 9 すべての受験番号欄に受験番号を記入してください。

受験番号

問題1 以下の英文を読み、設問1～4に答えなさい。

Several theories of prejudice and intergroup bias have considered affect to be either a direct antecedent or a contributing factor to intergroup bias. In the theory of the authoritarian personality, Adorno and colleagues argued that prejudice is the result of conflict and anxiety generated by children's relationships with their parents. (ア) Reflecting the influence of behaviorism and psychoanalytic theory, Dollard and associates proposed that intergroup bias is the product of displaced hostility triggered by frustration. As a vast literature of aggression research would later demonstrate, frustration generates anger that, in turn, fosters harmful behaviors including aggression and discrimination. The realistic conflict theory of prejudice offered a similar argument: (イ) Conflict between groups over limited resources or incompatible goals gives rise to enmity between the groups which, in turn, is manifested in biased attitudes and behaviors. Social identity theorists have hypothesized that one function of intergroup bias is to maintain and even enhance the self-esteem of group members. (ウ), threats to one's self-esteem should generate negative affect and foster bias against outgroups as a means of maintaining a favorable sense of self.

Just as negative affect appears to foster bias, there is also evidence that persons respond to bias with intense negative reaction. Quite often this negative reaction takes the form of anger accompanied by a desire for retribution and revenge against the offending outgroup. Although most likely to yield negative affect, victims of bias can at times take solace in making downward social comparisons to others who are even worse off than themselves.

Certainly those who perpetrate bias may derive both material and psychological benefit from their actions. Such benefit can include enhanced self-esteem. Nevertheless, engaging in bias does not inevitably yield positive affect. Inflicting bias can be a source of disquiet if retaliation is likely. In addition, bias may generate guilt if (エ) it violates personal standards or internalized norms of equity. Of course, rationalization and justification of bias may be attempted to assuage any discomfort. Furthermore, one need not engage in bias to reap its rewards nor suffer from bias to feel its pains. These effects can be experienced vicariously through shared membership in groups or empathy toward groups in which others mete out or receive bias.

(出典 : Brewer, M. B. & Hewstone, M. 2004 Emotion and Motivation. Blackwell)

設問1 下線部 (ア) を日本語に訳しなさい。

---



---



---



---

設問2 下線部 (イ) を日本語に訳しなさい。

---



---



---



---

設問3 空欄 (ウ) にあてはまる最も適切な語句を以下の選択肢からひとつ選び、記号で答えなさい。

- (a) Consequently (b) Nevertheless (c) By the way (d) Although

(ウ)

設問4 下線部 (エ) が指す語句を以下の選択肢からひとつ選び、記号で答えなさい。

- (a) a source of disquiet (b) retaliation (c) positive affect (d) bias

(エ)

受験番号	問題1 得点

問題2 以下の英文を読み、設問1～5に答えなさい。

A clinically inconsequential example of (ア) repression, the kind that Freud (1901) regarded as part of the “psychopathology of everyday life,” would be a (イ) speaker’s momentarily forgetting the name of a person he or she was introducing, in a context in which there was evidence for some unconscious negative feeling by the speaker toward that person. In all three of these variants of repression—the severe, profound instances of unremembered trauma, the developmentally normal processes that allow children to reject infantile strivings and seek love objects outside the family, and the trivial and often entertaining instances of its operation—one can see the basically (ウ) adaptive nature of the process. If one were constantly aware of the whole panoply of one’s impulses, feelings, memories, images, and conflicts, one would be chronically overwhelmed. Like other unconscious defenses, repression becomes problematic only when it (1) fails to do (エ) its job (i.e., dependably keeping disturbing ideas out of consciousness so that the person can go about the business of accommodating to reality), or (2) gets in the way of certain positive aspects of living, or (3) operates to the exclusion of other more successful ways of coping. Overreliance upon repression, along with certain other defensive processes that often coexist with it, has generally been considered the hallmark of the hysterical personality.

(オ) Freud’s early efforts to get hysterical patients to bring into consciousness both the traumatic events of their histories and the urges and feelings they had been raised to consider unacceptable yielded fascinating information. From working with this population he originally concluded that repression caused anxiety. According to his original mechanistic model, the anxiety that was such a frequent concomitant of hysteria was caused by a repressive bottling up of drives and affects. These feelings pressed for discharge and hence caused a chronic state of tension. Later, as he revised his theory in light of accumulating clinical observations, he reversed his version of cause and effect, regarding repression and other defense mechanisms as the result rather than the cause of anxiety. In other words, preexisting irrational fear created the need to forget.

(出典：Nancy, McWilliams. 1994 Psychoanalytic diagnosis: understanding personality structure in the clinical process. The Guilford Press)

設問1 下線部(ア)について以下の①②に答えなさい。

① 日本語に訳しなさい。

\_\_\_\_\_

② 用語の意味を具体例を挙げて述べなさい。

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

設問2 下線部(イ)はどのような理由で生じると考えられるか、文章を踏まえ述べなさい。

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

設問3 下線部(ウ)について、どうしてそういえるのか、文章を踏まえ述べなさい。

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

設問 4 下線部（エ）の意味するところを述べなさい。

---

---

---

---

設問 5 下線部（オ）を日本語に訳しなさい。

---

---

---

---

受験番号	問題 2 得点

2024 年度  
新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科  
入学試験（一次募集）問題  
『一般選抜』

「臨床心理学」

試験の受け方について

- 1 試験開始の合図があるまでは、この冊子を開いてはいけません。
- 2 この冊子は1～10ページまでとなっています。
- 3 解答はすべて別紙「解答用紙」に記入してください。この冊子に記入されたものは、採点の対象にはなりません。
- 4 試験時間は90分です。
- 5 印刷が不明瞭な場合のほかは、問題について質問は受けません。
- 6 不正な行為があった場合は、解答はすべて無効となります。
- 7 試験終了時に問題冊子・解答用紙・下書き用紙を提出してください。
- 8 すべての受験番号欄に受験番号を記入してください。

**問題1** 次の（ ）に最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

1. ある問題を解決する際に、必ずしも解決につながるとは限らないが、成功すれば解決に要する時間や労力を大幅に減らせる方法を（ ）と呼ぶ。
2. ある刺激によって、本来の感覚以外に別の感覚が不随意的に生じることを（ ）と呼ぶ。
3. 異なる年代集団に対して、長期的に追跡調査を行い、各年代集団に特異的な発達の道筋と各年代集団の違いによらない普遍的な人間の発達の道筋を分析する手法を（ ）と呼ぶ。
4. カウンセリングや心理療法において、セラピストとクライアントの間に存在する信頼関係のことを（ ）と呼ぶ。
5. Bruner, J. S. らによって提唱された、世の中の人たちが、性格について漠然としたかたちで抱いている考えや信念のことを（ ）と呼ぶ。
6. 認知についての認知、すなわち自己の認知活動の監視を通して、行動目標に沿った評価及び制御を行う、高次の認知活動のことを（ ）と呼ぶ。
7. Berne, E. は、人間が本来持っている能力を肯定的にとらえる3つの哲学と、構造分析、やりとり分析、ゲーム分析、脚本分析の4つの分析から構成されるパーソナリティ理論および心理療法である（ ）を開発した。
8. Harlow, H. F. が提唱した、いくつかの種類の学習課題を経験することによって、その種類の課題の学習の仕方を学習することを（ ）と呼ぶ。
9. 川喜多二郎が創案した、仮説生成のためのデータの整理・分類法のことを（ ）と呼ぶ。
10. 神経は脳を中心として、体内のすみずみまで張りめぐられ、全身を統制している。この体内の神経ネットワークは（ ）と末梢神経系に大別される。
11. カクテルパーティー効果のように、さまざまな情報や刺激のなかから、特定のものだけに注意を向けることを（ ）と呼ぶ。
12. Maslow, A. H. による欲求階層説は①生理的欲求、②（ ）、③所属と愛の欲求、④承認の欲求、⑤自己実現の欲求で構成される。
13. Bandura, A. が提唱した、ある状況において自分は適切に行動することができるという主観的判断や確信のことを（ ）と呼ぶ。

14. Spielberger, C. D. は「今、この瞬間に感じている不安」と「普段感じている不安」を測定する尺度として（ ）を作成した。
15. 説得技法のひとつで、初めに相手が受け入れにくい困難な要請をして相手に拒否させ、その後には譲歩したように見える、本当の目的の要請をして相手に応諾してもらうという要請方法を（ ）と呼ぶ。
16. Eysenck, H. J. は類型論と（ ）の両方の考え方を取り入れ、4つの水準からなるパーソナリティの階層説を考えた。
17. 身体的には成長していても心理的・社会的には未熟なために、社会的責任や義務を負うことが猶予されていることを Erikson, E. H. は経済学の用語を用いて（ ）と呼んだ。
18. 生体に嫌悪感情を引き起こす嫌悪刺激を用いた条件づけを行うことによって、特定の対象などに嫌悪感を形成させることを（ ）と呼ぶ。
19. 感覚受容器に与えられる刺激が変化しても、その刺激に対して生じる知覚があまり変化せず比較的安定している現象を（ ）と呼ぶ。
20. Adams, J. S. が提唱した、人は、自分と他者を比べて不公平感を感じると、それを解消しようと行動が動機付けられるという理論を（ ）と呼ぶ。

問題2 以下の設問1～3に答えなさい。

設問1 以下の文章を読み、(1)～(3)の空欄に入る適切な語句または数値を【語群】から選び、記号を解答欄に記入しなさい。

遺伝と生育環境を共有する一卵性双生児と、遺伝の共有は一卵性の半分だが生育環境は一卵性と等しい二卵性双生児の行動指標の類似性を比較し、遺伝と環境の影響を明らかにする行動遺伝学の方法論を【(1)】と呼ぶ。  
たとえ同一の家庭に生まれた双生児であっても、発達の中で経験する環境要因は完全に同一にはならない。環境要因の内、双生児間で共有されているものを共有環境と呼ぶのに対し、双生児間で共有されない環境要因を【(2)】と呼ぶ。  
ある特性について一卵性双生児と二卵性双生児それぞれにおける類似性(相関係数)が明らかである場合、遺伝要因と環境要因の影響力を連立方程式で求めることができる。一卵性双生児における相関係数が0.72、二卵性双生児における相関係数が0.56、遺伝要因をx、共有環境をyとした場合、以下の連立方程式により遺伝の影響は【(3)】%であると求められる。

$$\begin{cases} \text{一卵性双生児：} 0.72 = x + y \\ \text{二卵性双生児：} 0.56 = 1/2x + y \end{cases}$$

【語群】

A：横断的研究法	B：非共有環境	C：50	D：環境閾値
E：双生児研究法	F：非線形要因	G：28	H：進化心理学研究法
I：16	J：外部環境要因	K：32	L：比較心理学研究法

設問2 以下の文章を読み、(4)～(7)の空欄に入る適切な語句を解答欄に記入しなさい。

知的能力障害(知的発達症)は、発達期に生じる知的機能の不十分さと【(4)】機能の不足により診断される。児童福祉法では、重度の知的能力障害と重度の肢体不自由が重複している児童のことを【(5)】と呼んでいる。  
知的機能の評価においては標準化された知能検査によってIQを算出して参照することがあり、本邦で使用されている標準化された知能検査の例として【(6)】や【(7)】等が挙げられる。また【(4)】を評価するための標準化された尺度として Vineland-II がある。

設問3 以下の文章を読み、(8)～(10)の空欄に入る適切な語句を解答欄に記入しなさい。

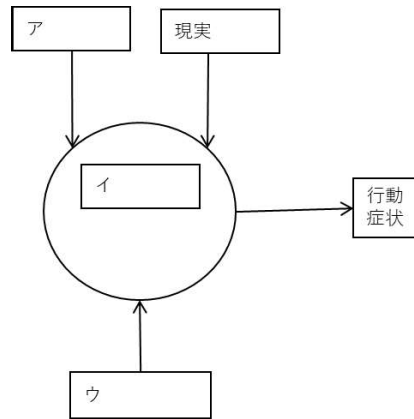
Erikson, E.H.による心理社会的発達理論において老年期の発達課題は【(8)】であり、危機課題は【(9)】である。発達課題が達成された結果として【(10)】が獲得される。



問題 3 以下の設問 1 ～ 2 に答えなさい。

設問 1 下図は Freud, S. の力動論を示した図である。下図のア～ウの空欄に当てはまる適切な語句を解答欄に記入し、それぞれがどのようなものかを説明しなさい。

図



設問 2 下記の文章は、Rogers, C. R. の「治療によるパーソナリティの変化に必要で十分な条件」の一部を抜粋してまとめたものである。ア～ウに当てはまる適切な語句を解答欄に記入しなさい。

- ① セラピストはクライアントとの関係の中で  ア  している。
- ② セラピストはクライアントに対して、  イ  な関心を持つ。
- ③ セラピストは、クライアントの内的世界を  ウ  に理解する。

設問 3 次の内容の心理療法の名前を下記の【語群 A】の中から選び、解答欄に記入しなさい。また、その療法のどのような考え方に基づいているかを【語群 B】の中から選び解答欄に記入しなさい。

まず不安を和らげる方法をリラクゼーション法等により学習し、その上で不安反応を引き起こす刺激を程度の弱いものから順にイメージさせ、その際にリラクゼーション法により不安を和らげることを繰り返し体験し、徐々に刺激の程度を強くしていくことによって不安反応を緩和していく。

【語群 A】

トークンエコノミー法	クライエント中心療法	系統的脱感作法	精神分析的心理療法
催眠療法	認知療法	短期療法	

【語群 B】

ABC シェマ	システムズアプローチ	オペラント条件づけ	レスポナデント条件づけ
分析心理学	実存分析	マインドフルネス	

設問 4 下記の用語と関連する人名を下記一覧から選び、記号を解答欄に記入しなさい。

- ① アニマ・アニムス
- ② ほどよい母親

ア) Balint, M.	イ) Winnicott, D. W.	ウ) Adler, A.	エ) Frankl, V. E.
オ) Bender, L.	カ) Sullivan, H. S.	キ) Perls, F. S.	ク) Jung, C. G.
ケ) Kalf, D. M.	コ) Axline, V. M.		

問題 4

問題 5

事例問題（内容非公表）

事例問題（内容非公表）

事例問題（内容非公表）

**問題6** 以下の設問1～2に答えなさい。

設問1 次の（ ）の中に最も適切な語句または数値を解答欄に記入しなさい。

1. 極端な値があるためにデータの中心を示す代表値として平均値を使用するのはふさわしくないとされるときには、代表値として（ ）などが使用される。
2. 3回に1回は当たるくじを3回ひいて、少なくとも1回は当たる確率は（ ）である。
3. 統計的検定においては、一般に母集団について、まず「差がない」「関連がない」などの（ ）仮説を立てて検討を進めていく。
4. 暦年齢10歳、精神年齢11歳の場合の知能指数は、（ ）である。
5. 推測統計における有意水準は、（ ）率とも呼ばれている。
6. クラスの1組2組は名義尺度、長さや重さは（ ）尺度である。
7. 再テスト法や平行テスト法、折半法などは、（ ）性を検討する方法である。
8. 授業を受ける前より授業を受けた後の方が個人の学力テストの点数が上がるかを検定する方法としては、（ ）のあるt検定が考えられる。
9. ある法案に対する賛成反対を男女別に調べた。この結果から賛否の割合に男女差があるのかを検定する方法としては、（ ）検定が考えられる。
10. ある薬の効果を調べる実験において、実際の薬を飲ませる群を実験群、偽薬を飲ませる群を（ ）群と呼ぶ。

設問2 サンプル調査（標本調査）が全数調査と比較して優れている点についての説明と、またサンプル調査において注意すべきことについての説明を解答欄に記入しなさい。